

八王子の祭りを感ずる Made in Hachioji みやげ

Made in Hachioji souvenirs to feel the festival of Hachioji

石田 心咲¹⁾, 有賀 一史²⁾

指導教員 李 盛姫

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 ビジュアルコミュニケーション研究室

八王子の伝統織物の魅力を多くの人々に広め、地域を盛り上げるために、「Made in Hachioji みやげ」として、八王子の伝統や祭りをモチーフにした商品デザインとパッケージデザインを提案し、商品化する。

キーワード：八王子の祭り、伝統織物、ハンカチ、巾着、ストール

1. 研究目的・動機

本研究室では一昨年から行われてきた八王子みやげをテーマにした共同研究に継続して取り組む。本年度では、Made in Hachioji みやげの事業を通して、八王子の地域活性化および、伝統産業の一つである織物の魅力を伝える商品の研究を行う。研究の成果物として商品を実売することで、八王子織物の知名度の更なる向上を図り、地域活性化につなげる。

2. 調査

2-1. 八王子織物

八王子周辺の村で織られ、八王子に集めて出荷された織物のこと。主な特徴は糸を染めてから織る先染めの絹織物である。

2-2. 風通織

二重織の一種で、表と裏に異色の糸を用いて平織の二重組織とし、文様の部分で表裏の糸が入れ替わるように織る織物のことをいう。風が通るようなざっくりとした(織り密度の粗い)柔らかい布ということで風通織という。

2-3. フィールド調査

八王子織物工業組合アンテナショップ“ベネック”では、マルベリーシティブランドのネクタイをはじめ、ストール、小物等豊富な品揃えがあった。

3. 分析・考察

ハンカチは普段の日常生活で使用する場面が多

く、幅広い年代でも需要があり、八王子織物を沢山のの人に広めることができるのではないかと考えた。八王子の祭りをハンカチの柄として取り入れ、幅広い年代に八王子織物の魅力を広める(石田)。

ストールは、元々八王子織物の主要な商品として販売されており、絹のしなやかさや、色の鮮やかさがより感じられやすいものである。若者や外国人向けにマーケティングを行うことで、八王子織物の良さを伝えられると考えた(有賀)。

4. コンセプトと提案内容

石田は、若者からミドル層をターゲットとし、手に取るたび祭のことを思い出してもらえるようなデザイン「手に取る祭り」をコンセプトとした「Made in Hachioji みやげ」の商品を目指す。

有賀は、若年層や外国人など八王子織物に触れたことがない方をターゲットとし、「祈り いのり」をテーマに、悩み、願い、特に夢を持つ若い世代に手に取っていただけるデザイン「いのりを届ける織物」をコンセプトとした「Made in Hachioji みやげ」の商品をめざす。

4-1. ハンカチデザイン(石田)

八王子まつり、いちよう祭り、七夕祭り、八王子花火大会の四つの祭りで展開していく。八王子まつりでは、山車と神輿をモチーフにし、カラーは今年採用された公式手拭いの緑を使用した。いちよう祭りは、秋の甲州街道をいちようが舞っているようなデザインにし、配色は秋をイメージした暖

色系を使用した。八王子花火大会は、火花が散っている様子をイメージし、沢山の花火が打ち上げられている様子を表している。七夕祭りは、短冊をモチーフに笹にくくられているイメージにし、淵は七夕の夜空のような落ち着いた色みにした（図1）。

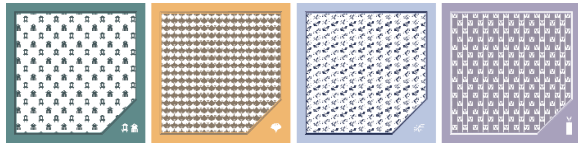


図1. ハンカチの提案柄

4-2. ブランディングコミュニケーション（石田）

パッケージ提案をするうえでブランド構築を行った。コンセプトをもとにロゴデザインを考える。名前には「親しみやすく手に取りやすい織物」という意味を込め、丸みのある柔らかい印象のフォントを使用した。デザインは、四つの祭りでバリエーションを変え提案する。ハンカチや巾着のデザインがシンプルなため、パッケージでも要点のみ伝わるように工夫した。グラフィック要素として、十五本の糸を風通織で使用し糸が織られていく様子を表現している。色は暖色、寒色で分けている。

4-3. ストールデザイン（有賀）

アイデア展開としては、七夕まじりの調査から、朝顔と笹の葉をモチーフに取り入れた。カラー展開では、海外の三つの地域を意識し、アジア地方では、織姫、彦星の服の元にもなっている漢服を意識し、アメリカ地方では力強い雰囲気を意識した。ヨーロッパでは、チェック柄と、織物の織り方の一つである、「平織り」の構造を掛け合わせたキービジュアルを展開した。七夕のイメージから、織姫と彦星のように、カップルでも楽しめるペアのデザインを考えた。素材は綿を使用し、大きさは1500×500を予定している。

4-4. ブランディングコミュニケーション（有賀）

ブランド名は「良織」（いおり）である。「いのり」と「織り」の造語である。「良」に、丁寧に織られた製品の品質の良さ、肌触りの良さや色の鮮やか

さ、質感の温かみなど、製品特性をわかりやすく伝えることができると考えた（図3）。

商品販売に向け、現在パッケージの考案を行っている。天の川をあしらった封筒型や朝顔をモチーフにした形、短冊をモチーフにした形の三案の中から検証を行い、最終案とする。また、ブランドストーリーを伝えるリーフレットの作成も行う。

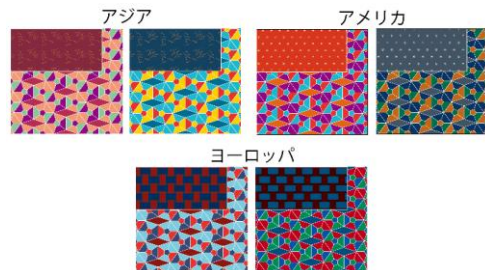


図2. 各地域の配色イメージ



図3. 提案ブランド・ロゴマーク（案）

5. 今後の展開

商品、パッケージなどをサレジオ高専学園祭で検証し、展示発表では大学コンソーシアム八王子学生企画事業補助金中間・成果報告会、八王子学生事業ジャパンクリエイション、大学コンソーシアム八王子学生発表、サレジオ高専学内展示発表を行う。八王子の文化や伝統を大切にしながら、新しい市場へのアプローチを目指す。

参考文献

- [1] 八王子織物工業組合(2024/6/1 閲覧)
<https://hachioji-orimono.or.jp>
- [2] 日本ハンカチーフ協会(2024/8/5 閲覧)
<https://japan-handkerchief.org/handkerchief/>
- [3] あさがお市&ゆかたを着て楽しむ七夕まつり
https://www.mytownclub.jp/smarts/index/1/page44=62/detail=1/c_id=44 (2024/7/15 閲覧)